

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：34311

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K12354

研究課題名(和文)日本人留学生の海外における性行動とその関連要因に関する研究

研究課題名(英文)A Study on Sexual Behavior of Japanese Female Students Studying Abroad

研究代表者

橋本 秀実 (Hashimoto, Hidemi)

同志社女子大学・看護学部・准教授

研究者番号：50515781

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：日本の大学が派遣する女子留学生の性行動に関する研究を行った結果、留学に慣れてきた留学3か月以降に避妊の失敗による妊娠の不安やお酒の席での誘いによる不安、性的暴行などの性のトラブルが起こる傾向がみられた。深刻な性被害の場合、現地に相談相手がいないことやセカンドレイプなどの実態があることが明らかとなった。性感染症や避妊についての教育、性被害・加害防止の啓発、性に関する相談窓口の充実と周知が求められる。この結果から女子留学生を対象とした冊子「女子大生が海外留学中に遭遇したトラブル～楽しく安全な留學生活を送るために～」を作成し、全国の大学に送付するとともにHPやSNSで発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の大学が海外へ派遣する留学生の性的健康問題に関する研究は進んでいない中で、今回、大学がリアルタイムに派遣留学生の問題を把握することが困難で、性に関する問題はさらに困難であることがわかった。性感染症や望まない妊娠の予防だけでなく、性被害・性加害防止の観点からの啓発・教育が求められていることが明らかとなったことから、啓発のための媒体を作成した。今後その活用の促進を図り、日本人女子留学生の海外における健康増進を図る一助となると考える。

研究成果の概要(英文)：As a result of a study on the sexual behavior of female students dispatched by Japanese universities, it was found that sexual problems such as anxiety about pregnancy due to contraceptive failure, anxiety caused by advances at the drinking table, and sexual assault tended to occur after three months of study abroad, when the students had become accustomed to staying abroad. In the case of serious sexual problems, it was found that there was no one to consult locally and that second rape was a reality. Education on sexually transmitted diseases and contraception, awareness-raising on prevention of sexual harm and assault, and enhancement and dissemination of sexual counseling services are required. Based on these results, a booklet for female international students, "Troubles Female University Students Encountered While Studying Abroad - For an Enjoyable and Safe Study Abroad Experience," was prepared and sent to universities nationwide, as well as published on the website and SNS.

研究分野：国際保健 学校保健

キーワード：日本人留学生 大学生 ウイメンズヘルス セクシャルヘルス 性被害

1. 研究開始当初の背景

グローバル戦略の一環として、2013 年には、留学促進キャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN」が開始され、2020 年までに海外留学大学生12 万人、高校生6 万人の目標を掲げている。2012 年、日本人海外留学生は60,138 人、主な留学先は欧米及び東アジアが中心で、米国、カナダ、英国の順であった（日本学生支援機構, 2013）。

来日した留学生の健康についての研究では、異文化ストレスとソーシャルサポートや文化適応と保健行動などについて取り上げられている(井上・伊藤, 1997; 久米・西川・大久保, 2010)。派遣留学生の健康管理は、留学前にオリエンテーションや健康調査などが行われているが、日本人留学生の保健についての研究は、留学中の精神疾患事例などごく限られたものにとどまっている（川岸・竹内・坂上, 2015）。大学の派遣プログラム等による留学は通常半年～1 年と長期の滞在を伴い、異なる言語環境、異文化の中で家族や友人と遠く離れた大きな生活環境の変化への適応を余儀なくされる。この適応過程はカルチャーショックと呼ばれ、海外移住者の異文化適応やメンタルヘルスに関する研究知見が蓄積されている。例えば米国の東アジア系移民高校生はコミュニケーションや人間関係等に困難を感じており、ソーシャルサポートや創造的活動などでそのストレスを癒そうとしていた（Yeh & Inose, 2002）。海外赴任者への健康支援は、産業保健の分野で、感染症予防、メンタルヘルスなどについての実践が積み重ねられてきた(津久井, 1996)。しかし、日本人留学生の保健についての研究は数少ない。

システマティックレビューによると、海外旅行時のCasual Sex（行きずりのセックス）は20.4%にのぼり、そのうちの49.4%は無防備なものであった（Vivancos, Abubakar & Hunter, 2010）。また、海外で新しいセックスパートナーをもつ者の特徴として、若年者、独身、男子、一人旅か友人との旅、過去に複数のセックスパートナー有、STI（Sexually transmitted infection）歴が挙げられている。さらに、新しいセックスパートナーと無防備なセックスをするリスクは、長期滞在者に高いとされている。つまり、長期に単独で海外生活をする独身の大学生は海外で新しいセックスパートナーを持つ可能性が高いと言える。申請者は、大学生の性行動に関する調査で、4 年生では性交経験者が7 割に上り、親と別居の学生に有意に性交経験者が多いことなどを明らかにした（橋本, 2013）。厚生労働省によると、近年、人工妊娠中絶件数は減少傾向にあるが、20 歳未満においては増加しており、人工妊娠中絶実施率は20~24 歳が最も高い。また、女性の性感染症は20~24 歳に最も多い。このように、性感染症や望まない妊娠のリスクの高い年齢層である大学生が海外長期滞在を伴う留学をするということは、さらにそのリスクを増加させる可能性がある。さらに、留学先で健康問題を抱えた場合、日本とは保健医療システムが異なる中、母国語ではない言語で必要な避妊や治療にアクセスすることが困難であることも予測される。

2. 研究の目的

本研究では、留学生の海外における性行動の実態を明らかにし、その関連要因を明らかにすることを目的とした。日本人留学生の性行動とその関連要因が明らかになることで、望まない妊娠や性感染症を予防する方策について検討でき、今後の留学生への支援に役立てることができる。なお、本研究では性行動を「異性間・同性間を問わず、性器の接触や挿入を伴う性行為にとどまらない避妊や性感染症予防を含む性に関する行動の全般」と定義する。また、留学生とは、「交換留学や派遣留学等で1 セメスター（4 か月）以上海外の大学において学ぶ大学生」を指す。

3. 研究の方法

(1) 派遣大学(日本)教職員へのインタビュー調査

日本人留学生の派遣にあたって、留学生への危機管理・健康管理についての大学の留学前・留学中の支援の実態を明らかにすることを目的とした。

2017年1月から4月にかけて、留学生を多く派遣している3大学の留学関係部署あるいは留学を多く取り扱う学部の教職員を対象にインタビュー調査を実施した。インタビュー内容は、留学生派遣の状況、オリエンテーションの内容、危機管理体制、学生との連絡手段や頻度、これまでに経験した事件・事故・疾病等のトラブルとその対処法、学生が健康で安全に留学生活を送るために必要と考えられる支援等についてであった。

(2) 留学生派遣大学への質問紙調査

全国大学要覧(平成30年度版)より、国際系学部、外国語系学部、文学部系学部を抜粋し、ホームページ(HP)より派遣が確認できた185校の国際関係部署または学部あてに調査用紙を郵送した。質問内容は大学の制度による2か月以上の留学について、年間の派遣人数概数、派遣留学生の男女比、オリエンテーション・事前指導内容、派遣中の指導・管理方法、過去の事件・事故とその内容、留学中の傷病とその頻度、異性関係のトラブルや性被害等であった。各項目について度数分布を確認し、大学の派遣状況と事件・事故、傷病、性のトラブルについて²検定またはクラスカルウォリス検定を実施した。

(3) 帰国した女子留学生への質問紙調査

帰国後3年未満を対象とした経時的な振り返り調査

2021年6月から12月までHPにおいて4か月以上の大学等の20代から30代女子留学経験者(帰国後3年未満)を対象に、Web調査を実施した。調査項目は対象者の留学時の背景、留学前の期待感や不安感、相談相手、性に関する知識や認識、恋愛経験、留学直後と3か月後、6か月後、帰国直後の気持ちや困りごと、相談相手、友人の数や恋人、性体験、性のトラブルや語学力であった。それぞれについて単純集計し、それぞれのケースで経時的に気持ちや困りごと、トラブルの有無について分析した。

帰国後3年以上を対象とした性のトラブルに関する調査

2021年6月から12月までHPにおいて4か月以上の20代から30代留学経験者女子(帰国後3年以上)で何らかの性のトラブルがあった者を対象に、Web調査を実施した。調査項目は対象者の留学時の背景、語学力、性のトラブルの内容やトラブル防止の方法の考えであった。それぞれについて単純集計するとともに、トラブルの内容やの防止方策について記述内容に基づいて考察した。

4. 研究成果

(1) 派遣大学(日本)教職員へのインタビュー調査

研究協力者10名に9件のインタビューを実施した(1件は2名同時にインタビューを行った)。協力者の内訳は教員4名、職員6名で、男性が1名、女性が9名であった。

いずれの大学も、留学までのスケジュール、事務手続きや危機管理についてのオリエンテーションを実施しており、海外旅行傷害保険の義務づけや危機管理会社の利用をしていた。学生との定期連絡については、月一回のレポートやSNSの報告をさせているところと何かあれば報告というところがあった。留学中のトラブルや課題については、留学中の欠席等、個人情報や理由に受け入れ大学から日本に知らせてくれない場合があること、性に関するトラブルは学生は報告しないので把握できないこと、本人からの連絡がないと親からの問い合わせがあることなどが

語られた。必要と思われる支援では、性についての問題を含む危機管理について自分事ととらえられるような事前指導の必要性や第三者の相談機関の必要性が語られた。

派遣留学生の健康で安全な留学のために、事前指導をより効果的に行う工夫や学生が気軽に相談できる体制が求められる。

(2) 留学生派遣大学への質問紙調査

185校(学部)に送付し61部の返送があった(回収率33.0%)。オリエンテーション・事前指導では留学関係事務、海外旅行傷害保険について61校すべてで実施、大学との連絡・報告59校、犯罪被害防止と事件事故の対処方法55校が続いた。留学中の事件等で多かったのは、すり・置き引き・窃盗等39校であった。傷病で多いと答えたのは発熱34校、下痢7校で、妊娠(疑い含む)と性感染症(疑い含む)は1校であった。性的なトラブルについてはストーカー被害12校(19.7%)、性的暴行(未遂)7校(11.5%)、痴漢や盗撮等5校(8.2%)があった。

日常的な傷病、すり・置き引き・窃盗等の軽微な犯罪被害が多く報告されているが、ストーカー被害や性的暴行についても大学が把握しているものがあつた。インタビュー調査の結果からも妊娠や性感染症、性被害については大学に報告がないものも多いと考えられ、健康で安全な留学生を送るための支援の工夫が必要である。

(3) 帰国した女子留学生への質問紙調査

回答者は7名で、留学時の所属が大学4、大学院3で留学時の年齢は20~31歳、留学期間は2か月から11か月であった。留学開始直後は楽しい気持ちがあつたが、3か月後では沈んだ気持ちの者もあつた。また、帰国直後はほとんどが気持ちの落ち込みがあつた。

調査協力者は少数であつたものの、延べ5件の性トラブルの報告があつた。内容は痴漢被害、避妊の失敗による妊娠の不安、お酒の場で性行為を迫られる、現地駐在日本人からの性的暴行であつた。大学等派遣元でも健康状況や事件事故についての把握に努めているが、性トラブルの多くは報告されていないと考えられる。何かあつた時に気軽に相談できる窓口の整備と周知が必要と考える。

痴漢被害以外の性のトラブルは現地の生活に慣れた3か月以降に起こつていた。痴漢被害については現地の文化や事情に馴染むことで回避行動がとれるようになる可能性がある。一方、友人や知人が増え、行動範囲が広がったり、恋人ができたことなどから、3か月以降に性のトラブルが増えると考えられる。留学初期に注意すべきこと、慣れてきた頃に起こりやすいことなど時期に応じて注意を喚起する方法を工夫する必要がある。

深刻な性被害に遭つた場合も、すぐに相談できず、現地大使館等も女性の性被害に十分に対応できていなかった。日本でも届け出のハードルは高く、その後のセカンドレイプは問題だが、海外での狭い日本人社会でなおさら相談がためられる。大使館職員の啓発、意識改革が求められる。さらに今回現地日本人による性加害の実態が明らかになった。海外に駐在員を派遣する企業による啓発、注意喚起が必要となる。

今回の性被害者はすべて友人の獲得や相談相手の確保はできていた。しかし、性的な問題の相談については、なかなか相談できない実態も挙げられた。性感染症や避妊についての教育、性被害・加害防止の啓発、性に関する相談窓口の充実と周知が求められる。

分析対象13名の留学時の年齢は19~36歳、留学期間は4か月から2年、留学時の語学力は中級6名、中級の上5名、上級2名であつた。性のトラブルについて、ストーカー等6件、セクシャルハラスメント4件、痴漢3件、性感染症2件、デートDV、妊娠(恐れ)、生理不順がそれぞれ1件挙げられた。詳細な内容では、同じ寮に住みしつこく付きまとい連絡してくる学生がいて困つたが共通の友人に間に入れてもらった、好きでもない相手に告白され、しつこくされて

困った、混雑する場所で痴漢にあった、指導者からのレイプ未遂があった上に、報告して怒られその後の活動にも影響があったなどの記述があった。

日本においても、ストーカーやセクシャルハラスメント、痴漢など性に関する被害は起こり、その被害報告や相談をためらうことも多い。海外在住である場合被害に遭った場合の相談相手は限られる。被害に遭ったうえにセカンドレイプの状態になるケースについて日本で起こっても深刻であるが、海外ならなおさらである。今回の回答者はすべて中級以上の語学力があり、現地語でのコミュニケーションが十分図られると推察されるが、それでも異性関係のトラブルや被害は起こり、その対処についても困難になることから、海外へ送り出す留学生に性被害防止の啓発を行うとともに、相談窓口の充実と周知、日本の大学側の被害学生対応の充実などが必要となると考える。

(4) 啓発資料の作成

研究結果から、危機管理、性被害防止の啓発教育の必要性や、媒体のニーズが大きいことが明らかとなったため、研究のまとめとして啓発資料を作成することとした。留学前・中の女子大学生が興味をもって読みやすいこと、教育媒体として教職員が活用しやすいことを考慮に入れ、漫画形式でケースを紹介したのちアドバイスを入れた。また、相談窓口のニーズもあったことから、海外からも Web 等でアクセス可能な相談窓口の一覧を作成した。冊子の読みやすさ、表現等について現役の女子大学院生に確認してもらい修正した。冊子は全国の留学生を派遣している大学に送付した。また、女子留学生のアクセスのしやすさを考慮し、HP 上に掲載するとともに、SNS でも発信し、HP へのリンクを貼り付けた。

【文献】

- 橋本秀実.(2013). 看護系大学生のHIV/AIDS に関する知識、性に関する認識および性行動とその関連.三重県立看護大学紀要, 15, 75-85.
- 井上孝代, 伊藤武彦.(1997).留学生の来日一年目の文化受容態度と精神的健康. 心理学研究,68(4),298-304.
- 川岸久也, 武内治郎, 坂上優.(2015). 短期留学を完遂できなかった学生の事例研究. CAMPUS HEALTH, 52(2), 113-118.
- 久米絢弓, 西川まり子, 大久保一郎.(2010). 在日中国人留学生の保健行動に関する実態調査. 国際保健医療, 25(3),171-179.
- 日本学生支援機構.(2013).日本人の海外留学状況. 2015 年10 月14 日アクセス
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/_icsFiles/afieldfile/2015/03/09/1345878_01.pdf
- 津久井要.(1996). 産業衛生とストレス 海外勤務者及びその家族のメンタルヘルス. 心身医学, 36(2), 175-182.
- Vivancos R, Abubakar I, Hunter P.R. (2010). Foreign travel, casual sex, and sexually transmitted infections: systematic review and meta-analysis. *International journal of Infectious Diseases*, 14. 842-851.
- Yeh, C & Inose, M. (2002). Difficulties and coping strategies of Chinese, Japanese, and Korean immigrant students. *Adolescence*, 37, 69-82.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 橋本秀実, 大西真由美, 柳澤理子
2. 発表標題 大学の把握する派遣（日本人）留学生の健康・犯罪被害・性の問題の実態
3. 学会等名 第36回日本国際保健医療学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本秀実, 大西真由美, 柳澤理子
2. 発表標題 日本人女子留学生の性に関するトラブル等の実態
3. 学会等名 第37回日本国際保健医療学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hidemi HASHIMOTO, Mayumi OHNISHI, S跡子YANAGISAWA
2. 発表標題 Description of Sexual Troubles Among Japanese Female Students Studying Abroad
3. 学会等名 26th East Asian Forum of Nursing Schoars 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 橋本秀実, 大西真由美, 柳澤理子
2. 発表標題 留学生を派遣している大学の留学生への危機管理・健康管理について～教職員へのインタビュー調査から～
3. 学会等名 日本国際保健医療学会 第41回西日本地方会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Women's Happy Study Abroad 女性の健康で安全な留学を支援する研究会（橋本秀実，大西真由美，柳澤理子）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 なし（啓発冊子）	5. 総ページ数 14
3. 書名 女子大生が海外留学中に遭遇したトラブル～楽しく安全な留学生活を送るために～	

〔産業財産権〕

〔その他〕

womeshappystudyabroad.jp Women's Happy Study Abroad 留学先での性的トラブルから身を守るために

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	柳澤 理子 (Satoko YANAGISAWA) (30310618)	愛知県立大学・看護学部・教授 (23901)	
研究分担者	大西 真由美 (Mayumi OHNISHI) (60315687)	長崎大学・医歯薬学総合研究科（保健学科）・教授 (17301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------